



企画にあたって

筒井裕之

(九州大学大学院医学研究院循環器内科学教授)

遠隔医療には、専門医療機関と地域医療機関・主治医を連携する遠隔診断および遠隔相談・支援・教育（医療者間：D to D）と地域医療機関・主治医と患者を直接結ぶ遠隔診療・遠隔管理（医療者－患者間：D to Pや医療者－看護師－患者間：D to N to P）が含まれます。近年の情報通信技術（ICT）の進歩は目覚ましく、循環器疾患の診療においても遠隔医療の導入・普及に大きな期待が寄せられています。心血管画像の読影を行う遠隔画像診断や遠隔相談（コンサルテーション）・遠隔支援や教育（カンファレンス）など医療者同士（D to D）の遠隔医療はすでに現実のものとなっています。

遠隔医療は、わが国の医療の効率化による患者ばかりでなく医療従事者の負担の軽減、医療の標準化による医療の質の向上、さらには医療コストの軽減や地域医療格差の是正など社会・経済に大きく貢献すると期待されています。さらに遠隔医療の発展とともに、その基盤となるデバイスモニタリング、ICTやIoT、さらには医療ビッグデータやAI（ディープラーニング）などを中心とした科学技術イノベーションが加速化されることも期待されます。

一方で、本年4月より医療制度改革の一環として「オンライン診療」の制度化が実施されましたが、循環器疾患診療における遠隔医療の普及は十分とはいえません。そのような背景には遠隔医療がみとめられる範囲などの課題もありますが、その安全性、有効性、経済性の評価・分析が十分ではなく、標準医療として確立されていないという現状もあると考えられます。

本特集では、循環器疾患に対する遠隔医療の最前線を紹介いただくとともに、遠隔医療全体の課題や遠隔医療とともにその発展が期待されるキーテクノロジーであるIoT、さらにはAIやビッグデータなどのイノベーションに関する最新情報についても取り上げました。外来、入院、在宅医療に次ぐ第4の医療として遠隔医療がまさに到来している新時代を感じ取っていただければ幸甚に存じます。